

手助けを必要としているのに  
誰も手助けできない部分  
そんな空白を埋める「地域の環」  
そこにある人と人との繋がり

利用者への唯一無二のサービス

サービスの内容が決まっていな

いからこそ、住民参加型在宅福祉サービスには日々、さまざまな依頼が舞い込みます。そのため、サポーターの皆さんは「地域サポーター養成講座」を受講し、利用者の依頼に応じて、対応する人数やサ



▲サポーターとして必要なさまざまな知識を学ぶ地域サポーター養成講座

ポーターの得意不得意を配慮して依頼に依っています。それでも利用者からの予期せぬ依頼も多く、サポーターの皆さんは頭を悩ませることも多いと言います。「スマートフォンを使い方がわからないから教えてほし

い」「メダカの水槽の水を入れ替えて」「バイク事故に遭って動けないから湿布を貼りに来て」本当に予想だにしない依頼の連続です。しかし、サポーターの皆さんは試行錯誤しながら利用者の要望に答えられるよう一杯努めています。全ては、周囲の手を借りられない利用者のため——そこには本当に助けが必要な人とも言えるサービスが実現されていました。



▲依頼内容を終わるとチケットを預かり、次回の予定を調整します。依頼の成果にサポーターも利用者も一息つける瞬間です

ただお手伝いをするだけじゃない  
サポーターの私たちにとって  
この活動が楽しく、そして勉強になる

● サポーターの声  
Supporter's voice  
いいね！大羽根代表  
やすだ じゅんこ  
安田順子さん



● 利用者の声  
User's voice  
みやぎきとくこ  
宮崎徳子さん  
(鈴鹿台区)  
age 81



● サポーターの声  
Supporter's voice  
朝上ささえ愛代表  
くろだ とよひろ  
黒田豊廣さん



この活動の前から地域の皆さんから要望をいろいろと受けていましたが、やってあげたくてもやってあげられないことが多く、歯がゆい思いをしていました。そんなとき「朝上ささえ愛」立ち上げの話があり、ぜひやりたいと思って参加しました。わずかに謝礼はいただきますが、この活動はまさしくボランティアと言え、利用者からの「ありがとう」の言葉にやりがいを感じ、活動を続けています。

え合いを復活させたい、そして年齢を重ねたとき、いつかはこのサービスを自分も利用できるようにしたいという思いを胸に活動を継続されています。そこには「地域の環」が生み出す次の世代へとサービスを繋げていく大きなエネルギーの循環があるように感じられてなりません。

自身も利用するときがくる

各グループが窓口として公表している連絡先に依頼の電話がない日はほとんどないと言います。それだけ頼りにされているサポーターの皆さんですが、サポーターの

皆さんにも自身の生活があります。住民参加型在宅福祉サービスは生活の中でできた少しの時間を活用して、利用者の元へ向かえるもの、活動が負担となる部分があることも否定はできません。ただ、サポーターの皆さんが共通して感じていることは、この活動は単なるお手伝いでは

なく、やりがいを感じて依頼を受け、活動を通して自身の勉強にも繋がっている、ということ。サポーターの皆さんの年齢はさまざまですが、決して働き盛りではなく、定年を迎えても何か活動をしたかった方がほとんどです。そんな皆さんがサポートに行われていた地域での支



③庭の除草作業の依頼で利用者の宮崎さんと相談しながら除去方法を提案するサポーターの黒田さん④大量の雑草を処理するサポーターの伊藤さん

長く健康でいるために  
健康寿命が大事



高齢化率が高まる現在、誰かの手を借りることなく、自立して日常生活を送ることができる「健康寿命」を延ばすことが重要視されています。町では、地域の方々がトレーナーや講師となって健康寿命を延ばすための各種教室を開催しています。

- ▶CHECK 01 介護予防運動教室  
健康運動指導士が筋力アップ体操や認知症予防体操などを行います。
- ▶CHECK 02 元気づくり運動教室  
お近くの公会所などで軽運動やストレッチ体操などを行っています。
- ▶CHECK 03 みんなの運動サロン  
運動が苦手な方でもできる運動を地域のサポーターがお教えます。

敬老の日に合わせ長寿を祝う  
100歳満 100歳を祝う



今年度、100歳を迎えられた諸岡三四子さんを町長が表敬訪問し、長寿を祝いました。諸岡さんは現在も毎日、自宅近くの畑を訪れています。町長から長寿の秘訣を問われると、「畑の世話をしていると身体も丈夫になって、健康になります。私が畑にいただけで周りの皆さんにも喜んでもらえます」と話しました。今年度は町内で14名の方が100歳を迎えられました。



①サポーターの安田さんの作業をほぼ笑みながら眺める松田さん②依頼内容が終了するとお互いに名残惜しいが「またね」と挨拶する